

發行兼編輯人 川崎文治 福島縣石城郡平町字長橋町卅五番地



刊夕日三十二月二

定部金貳圓 一月限貳圓 廣告費五十圓 印刷所 一〇活版所

寄書 農村振興の實際方策を論ず(四) 不登大岳人... 動力を利用して以て牛馬に代る農民の勢力を節せねばならぬ農業努力賃金の度合を引上げて以て待遇の向上を計らねばならぬのである

事を卑下するに至つた農民貴族富豪は徒に都會に閑居せず自ら進んで地方に居住して模範となり指導となり一村團らうして始めて其郷は現出され農村の繁榮は培はれるのである

何が故に卑賤なるものぞ愚昧なるものぞ若し甘んじて我國に農民たるものなくんば半日を待たずして我六千萬國民は餓鬼に墮せん其責務の重且大なるを思はずして只管之を卑下する所以のもの皆之れ制度の不備より來る社會的勢力の壓迫の然らしむる處である兵役の義務を課せられ納税の義務を課せられ而して一の權利を享有せざる彼等十七八世紀の奴隸其儘に外ならぬ彼等農民の多くは國家の干城の重きに任じ日清日露近きは日獨の數戰に於て國家を泰山の安きに置かしたる

カティラン ぼろメリンスの利用法 ぼろメリンスは、本當に使途のないもので、三分位の巾に引きさいてつなぎ、毛糸を編む様に太い編針で短編みにいたしますと、子供の蒲團や座ぶとんになります

貸地廣告 平町舊城跡(本丸) 飲料水の便よく 住宅地に最も好適 右御望みの坪敷御貸申 候御來談願上候 加藤營業所 平町字白銀町 電話乙三二番

木綿ぼろの利用法 雜巾にもならぬやうな古ぼろは、五六巾に引きさいて長くつなぎ、かたく三ッ組にあんでおきますと細引代用になります、蟲ぼろの際類がいたみますが、このぼろ利用の細引ならばその心配はありませぬ荷造用にも丈夫です

有給外務員募集 業務簡易月給五拾圓外手當歩合にて月收百圓以上 人員五六名廿歳より四拾歳位 御希望の方は履歷書持參の上大至急御來談あらんことを乞ふ 平町田町六八 丸登株式会社 電話三三二二番

式賣買中値 左記の値段は本日の標準値に付御用の節は御問合願候 銘柄拂込 時價

常磐文藝 ◎なきがら 正憲 カナリヤの死骸 埋めよこて 庭の片隅掘つたれど さても手向の花がなし 靈に捧げむと 名も無き花を折りたれど 土を掘る間に日が暮れて ありし日の事しのばれて 涙ながらに埋めて来た

看護婦派の求めに應ず 平町南町 平看護婦會 電話三〇七番

立原榮太郎 立原三郎 菊地與八郎 川崎文治 羽岡平三郎

丸登株式店の取引銀行 磐城銀行 五〇〇 五七〇 平銀行 五〇〇 七〇〇 磐城銀行 三〇〇 二八五 田村實業 一二五 一五〇 四倉銀行 一七五 一七〇 農工銀行 二〇〇 二六〇 同新 一五〇 二〇〇 同新 一五〇 五〇〇 同新 一五〇 一五五 七十七銀行 一五〇 九五 郡山電氣 一五〇 三八七 同新 二五〇 一八〇 只見川電 一二五 六五 植田水電 一二五 一五三 好間水電 一二五 一三五 磐城建物 一二五 五五 磐城製菓 二〇〇 六〇 平信託 五〇〇 三五〇 磐城勸業 一二五 一三五 植田物産 三〇〇 二八〇 平製氷 二五〇 二七〇 好間軌道 五〇〇 三五〇 入山新 三三三 一七〇 小田炭礦 二五〇 一〇〇 磐城炭礦 二五〇 四三〇 同新 二二五 一九〇 磐城セメント 五〇〇 七五〇 同新 一七五 三〇〇 平運送 一二五 八〇

東新株 先限 平町田町 電話三三二番 丸登株式会社 川添房二郎

募集 文藝其他一般投稿を募集します

外科... 泌尿科 皮膚病 梅毒科 入院 阿部醫院 平町字新川町 電話五六七番

荆妻シモ儀永らく病氣中の處藥石効なく廿三日午前十時廿分死去仕候間此段辱知諸彦に以紙上御通知申上候 二月廿三日

丸登株式店の取引銀行 磐城銀行 五〇〇 五七〇 平銀行 五〇〇 七〇〇 磐城銀行 三〇〇 二八五 田村實業 一二五 一五〇 四倉銀行 一七五 一七〇 農工銀行 二〇〇 二六〇 同新 一五〇 二〇〇 同新 一五〇 五〇〇 同新 一五〇 一五五 七十七銀行 一五〇 九五 郡山電氣 一五〇 三八七 同新 二五〇 一八〇 只見川電 一二五 六五 植田水電 一二五 一五三 好間水電 一二五 一三五 磐城建物 一二五 五五 磐城製菓 二〇〇 六〇 平信託 五〇〇 三五〇 磐城勸業 一二五 一三五 植田物産 三〇〇 二八〇 平製氷 二五〇 二七〇 好間軌道 五〇〇 三五〇 入山新 三三三 一七〇 小田炭礦 二五〇 一〇〇 磐城炭礦 二五〇 四三〇 同新 二二五 一九〇 磐城セメント 五〇〇 七五〇 同新 一七五 三〇〇 平運送 一二五 八〇

東新株 先限 平町田町 電話三三二番 丸登株式会社 川添房二郎

江田信號所を停車場に 卅萬圓の經費が掛る

變更を懸念されて

小川村長からの請願書

平郡線江田信號所を停車場に變更の問題はその後漸く具體化し此程石城郡下小川村長から正式に仙臺鐵道局に請願書を提出した同信號所は急勾配にせねば到底列車が出来ないので板谷峠のやうにスリッパバック式にせねばならず、それには卅萬圓の經費が入る處から變更を懸念されて居たが請願の内容は大體の條件を具備して居る故多分容れられ來年度から實行されるらしい

謹告

本日は近親者が死去しました爲め甚だ遺憾ながら充分編輯に努力する事が出来ませんでした、さぞ見苦しい点がある事と思ひますが幸じて休刊を免れた事は一社一人主義を標榜する私が讀者各位に忠實な所以であると思召されて御同情を願ひ上げます
二十三日
社長 川崎文治

明日開講の 園藝大學

申込三百余名 (千人迄收容の見込)

既報園藝大學は明二十五日より五日間郡會議室で開催されるが既に申込者は三百名に達し何人でも聴講は自由で千人迄は聴講を許可する筈であるから希望者は當日來講するも差支へなく講習生には優待券を配付し記念品も頒布するが無欠席者には講師自署の修得書を授與する筈

植田町に 蒔圃普及會

栽培普及會 低廉な種玉を

石城郡主要物産の蒔圃物は逐年栽培減少し當事業者及

補助交付 訓盲院へ

主務省がら
警城訓盲院は二月十一日附にて文部大臣より盲啞教育費補助として金五百七十二圓交付された

石城郡北部 青年聯合大會

來月大野村で
石城郡北部聯合青年大會は

刺身庖丁で 脅す

無錢飲食の末

平町白銀町松崎屋旅館番頭皆川盛次(三九)同村材木町瀧

最も公平に取締る

選舉界は腐敗して居る

伊藤警察署長の談

議會解散後既に廿有餘日を數へて居るが五月初旬には全國一斉に行はれる總選舉が間近になつたので伊藤警察署長に選舉取締に關する意見を叩けば『由來選舉の取締りは割合に緩慢の感あつたが而し割合に本郡としては失態もなかつたので結構でした、現在の選舉界は根柢から腐敗して居るから何等か方法を以て是を革正せねばならぬと思つて居る縣の方針に基いて最も公平と然も嚴重なる取締を爲す方針です、法に觸れたものは遠慮なく處罰する積りです』と語つた

途方に暮れ た鮮人

相談所が救濟

石城郡四倉町居住朝鮮人金花辰(三九)外廿名は過般來常磐線四倉方面の鐵道線路工

眞性慾問題

女性の體育問題處女の體育問題は何れも女性の體格的完成を目的として考慮されるのである。其手段には種々の工夫があるであらうが處女が完全に發育した身體を持つ事が國民の健康上最も重要なことであるものは云ふまでもない處女の精神的完成もその一部は身體の健康發育の影響を受ける假に同一素質のものであれば、身體の自然的發育とともに精神も素直に

江名生徒旅行

江名私立旅行江名小

學校高等科生四十三名は篠原校長志賀訓導其他付添父兄十名引率し二十八日日立鑛山水戸霞ヶ浦飛行場へ修學旅行を爲す

酒井寅之助氏

石城郡書記

南會津郡上野書記に榮轉
立原シモ子氏(立原榮太郎氏令聞)永らく病氣中の處本日午前十一時廿分死去した

孤兒を種に 周旋料を騙取

村民を籠絡し

石城郡草野村大字片寄通照寺住職某(三九)は過般の東京横濱方面の震災當時に孤兒を世話せんと甘言を以つて村民を籠絡し周旋料として十圓十五圓等を借用して騙

珍聞奇聞

鼓動を無電で

ルイスから人間の心臓の鼓動を無電で放送し五百哩隔てたテキサス州で聞かれた

窃盜と毒最中日本橋區

舟山爲藏(三九)は知人に毒最中を食はせ苦悶するを見て薬を買ふと百六十圓窃取す

泥酔巡查溺死

新潟縣 寺迫署巡查太田清一(三九)は巡回の途中酒を飲んで泥酔し河に落ち込み溺死した

女教員の情死

名古屋 技藝學校女教員芳川しげ(三九)は會社員平岡喜太郎(三九)とピストルにて胸を打ち情死

社掌が焼死

新潟縣

來年か

豫算の關係で

中蒲原郡笹野神社から發火全焼し神体を取り出さんとした社掌和田昇(三九)は焼死
平第三校は
平町に於ける小學兒童の増加が著しい結果第三小學校を來る四月から開校すべく餘儀なくされて居るが右に付き會我第一小學校長は語る『本縣中郡山と當町は年々生徒激増が著しいのです勿論第三校の必要は急に迫つて居ますから警中舊校舍を利用する事となるので豫算の關係で本年はむづ

各炭礦協議

聯合會出席の

評議員を豫選

各炭礦の出炭並びに發車状況及び貨車廻りの近況に就て報告ありたる後石炭礦業聯合會に選出すべき常務側の評議員豫選の件を附議す

高久豫算村會

高久村

會は來る二十五日午前十時より同村役場で開催大正十三年度豫算に就いて協議す

商校生送別會

平商業

學校では二十三日午後一時より同校で卒業生の送別會を開催せるが余興數番あり非常な盛會であつた

腕時計を拾得

内郷村

吉田一義は十九日同村宮地内で腕時計一ヶを拾得平署

産馬組合會議

石城郡

産馬組合では今二十三日午前九時より郡會議事室に於て左の協議を爲した

一、大正十三年度歳入出豫算の件

二、大正十一年度歳入出決算の件

佐藤氏來平

本縣政友支部幹事長佐藤庄太郎氏は昨二十二日午後十一時四十分平着岩沼まはり列車にて來平した

磐崎校學藝會

磐崎第

二小學校では來る二十四日午前九時より第五回兒童學藝會並に父兄懇話會を開催する